

“元気で野川”～みんなで川づくり～

野川流域連絡会（第2期）活動報告会

議 事 録

日時：平成18年2月18日

於：東京都庁 都民ホール

次 第

1. 開会
2. 座長挨拶（東京農工大学 名誉教授 小倉紀雄）
3. 野川と野川流域連絡会について（同 上）
4. 水量、水質、生きもの分科会の活動報告（流域連絡会まとめ役）
5. 野川の通信簿（小金井市立南小学校 児童代表）
6. 情報バザーの報告（野川流域連絡会、市民団体代表）
7. まとめ
8. 閉会

1. 開会

進行役 それでは定刻午後1時になりましたので、野川流域連絡会第2期の活動報告会、「元気で野川、みんなで川づくり」の報告会を始めさせていただきます。本日司会を勤めさせていただきます野川流域連絡会杉山典子と田邊和子でございます。よろしくお願いいたします。いま1時に始めまして終了は概ね3時30分を予定しておりますので、どうぞ皆さま方ご協力をよろしくお願いいたします。それではまず始めに野川流域連絡会第1期の設置当初から座長を務め頂いております東京農工大学の小倉紀雄名誉教授よりご挨拶を頂きます。小倉先生よろしくお願いいたします。

2. 座長挨拶

座長 皆さんこんにちは。ご紹介いただきました小倉でございます。本日野川流域連絡会第2期の活動報告です。この主旨は第2期、様々な活動を行って参りましたのでその活動を皆様にご報告して更に今後、第3期に向けて元気な野川を保全し、更に取り戻すためにどうしたらよいかと考える場であると理解しております。午前中ロビーで情報バザーを行いまして、野川で活動されている皆様方と、たっぷり時間がありましたのでいろいろな情報交換をすることができました。この第2部では分科会の活動報告、それから小金井市の南小学校の代表の皆さん方から野川の通信簿の報告、それから情報バザーの報告等、盛りだくさんです。ぜひ野川についての情報を理解して頂いて今後に向けて活用して頂ければと思います。本日はよろしくお願いいたします。

3. 野川と野川流域連絡会について

進行役 小倉先生どうもありがとうございました。小倉先生には引き続きまして野川と野川流域連絡会についてのご説明とあわせまして野川流域の水循環を考えると題しまして小金井市の事例についてご講演を頂きます。パワーポイントの用意はよろしいでしょうか。ちょっと準備をさせていただきますのでしばらくお待ちください。お願い致します。

座長 それでは簡単に第2期の野川流域連絡会の活動報告と野川での水循環を考える際に何が問題かについて、15分時間頂いて報告させていただきます。野川の概要はよくご存知だと思いますが、全長は約20キロ、流域面積が46平方キロ、国分寺、小金井、府中、三鷹、調布、狛江を経て世田谷で多摩川に流入するという河川でございます。次お願いします。この流域連絡会はどういう目的でつくられたかといいますと、野川を自然豊かで地域に親しみある場所とする為にどうしたらよいか。流域内で公募したあるいは団体の代表の方と行政で野川に関する情報やいろいろな意見交換などを行って、元気な野川を目指す、取り戻すためにどうしたらいいかということを経営と行政が共同して考えるという目的がございます。構成は都民の公募の代表の方あるいは団体の代表の方、それから自治体、上流から国分寺、小金井、府中、三鷹、調布、狛江、世田谷、それから東京都建設局の河川部と事務局が北多摩南部建設事務所として、市民と行政が一体となって連絡会を構成しています。任期は2年でこの3月に第2期の任期が切れることになりまして第3期に向けての準備をしているところでございます。次お願いします。第1期は平成12年の8月から15年の10月まで活動をいたしまして、第1期も様々な活動をしてまいりました。第2期はそれを受けて15年の11月からこの3月まで活動を続ける予定になっています。過去の開催の経過を振り返ってみますと、全体会、委員は全部で55人、5回開催をしております。それからもっと活発な活動するために水量分科会、水質分科会、生きもの分科会に分かれてまして、これを見て頂きますと20回、22回、17回と非常に数多くの分科会での活動があり、具体的な活動内容も非常にユニークな活動が行われてきています。それについては後で分科会の報告がございます。それからいま野川では河川整備計画が進んでおりまして、それにとまって流域連絡会での意向を十分尊重して整備計画をつくるということで意見交換会を6回開催いたしまして、流域連絡会のメンバーの方も活発な意見を出して反映して頂いているところでございます。それから後は現地見学だとか観察会を開催しております。次お願いします。ひとつのケーススタディーとして野川を全体で考えることは大変難しいので、小金井市の地下水および湧水の保全条例が出来まして、その条例によりまして環境基本計画の中に地下水の保全および湧水の保全利用に関わる計画を盛り込む事になっています。そこで専門家会議をつくりまして、こういうメンバーで昨年3月から6月末まで8回にわたって集中的に議論をして参りました。小金井市は野川の上流から中流にかけて位置するところでございます。次、お願いします。これは環境基本計画の中に盛り込まれた内容です。野川の水量の歴史的な変遷を見ますと、玉川上水が1654年にできまして水路、用水路が拡大して野川の水量も豊かになった。ところが1965年に玉川上水がストップ、用水が停止されまして、それに伴って今度は70年代高度成長期にかけて水質汚濁が進み、生活雑排水が野川に流れ込み、都市化に伴う家庭雑排水増加で流量が増加した。その後、次第に下水道が整備されるに従って流量が減少してきている。本来の湧水由来の自流量というのは、このへんがなかなか解らないところですが、現在下水道がほぼ小金井市では100%整備されていますが、浸透マスが83年に設置開始されまして今後どうなっていくのか、雑排水以外の水はほとんど増水時以外には流れこまなくなりましたので今後どうなっていくかという変遷を示した図です。次、お願いします。これは野川の小金井市内の湧水で貫井神社と野川公園の代表的な湧水の変遷ですが、降水量によって変動はしますが全体的に流入量は減ってきている様子が解ると思います。次、お願いします。これは小金井市をターゲットにした水循環の変化を示した図で、最終的に湧水等が増えて野川がなお豊かな川になればよいと考えるわけですが、そのために水循環として何を考えたらよいか、当然の事ながら漏水、それから蒸発散もあるし、それから緑地や農地からの浸透もある。それからあとは小金井では浸透マスを盛んに設置をしている、そういうところからの浸透。一方では深井戸から水を揚水する、それから浅井戸から水を揚水する。そして他からきた水と一緒にそれが下水として処理されると、こういう水循環

系を考えていく必要があるだろうと思います。次、お願いします。これは小金井市の例として水収支を見積もった例です。これは先ほどの専門家会議で現在あるデータを収集し、いくつかの仮定を設けて数字を入れてみたものです。ですからまだ精度は十分ではありません。データが非常に限られていますので、これから精度を上げていくということが大事だろうと思います。こういう数字を入れることによって何が問題かというのが解ってきます。そのために、そんなに精度は高くないのですが、水収支を見積もって見た。これは平成 15 年のデータです。まず降水量が 1770 ミリ、蒸発散 510 ミリですから 1260 ミリが水資源として利用できるということになります。これは湧水ですね、これが降水量 1770 ミリに対して 50 ミリ、これは単位を統一するためにミリで表していますが 50 ミリ、これをいかに増やす事が大切か、そうすると野川の水量も増えるということになります。ここで幾つかの特徴を挙げますと、細かい事は抜きにして、降水量の約 3 割が蒸発散によって失われるということがひとつですね。それから農地、緑地からの浸透、水道からの漏水、浸透マスからの浸透がかなりの割合をしめ、降水量の 3 割強をしめる。それから浸透マスが 1770 に対して 110 ですから数%ぐらい、これは小さくはない効果を持っているのだろうと思います。それからもう一つは地下水を揚水して他からの水をあわせて 1120 の水を使っている、この地下水を出来るだけ大切にするという意味で節水も大切な事だろうと思います。問題は使った水がほとんど下水道に行きますが、下水処理場にはそれに上回る水が流れこんでいます、それは 530 ミリの雨水が下水道に入り、処理場に入っている。ですからこれはもったいないですね、これから湧水を増やすためにはこの雨水の 530、降水量の約 3 分の 1、3 割程度が使われないで下水処理場まで行ってしまうということが明らかになってきました。これからこの雨水をどうやって活用していくかということが非常に大きな課題になるのではないかと考えています。次、お願いします。いま浸透マスは決して小さくない効果であるということで、これを幾つかの仮定を設けて、その数字を見てみました。これは現状、2003 年度の土地利用における小金井市の浸透マスの設置率で、先ほどの数字と仮定の根拠が違うので数字はちょっと違っていますが、それぞれの土地利用に対してどのぐらいの雨水が浸透するか、その割合が浸透係数ですね、普通の屋根、浸透マスの無い屋根だと 0.1 ですが、浸透マスのある屋根だと 0.87 になる。それから公園の用地は 0.8 ぐらい、市の全体の浸透係数は見積もると 0.32 になる。浸透量は約 565 ミリ。それで今度はこの屋根に全部浸透マスを 100% 設置したとするとこれは 0.42 に上がってより効果的に雨が浸透するということと言えます。次、お願いします。今度は宅地の開発によって農地が 20% 減少し、浸透マスをつくる住宅に代わったとすると、これが市の浸透係数が現状 0.32 ですからやや小さくなった。浸透マスが頑張っていたということがわかります。今度は浸透マスの住宅が仮に 10% 減って、その代わりに公園、浸透係数が 0.8 という公園になったと仮定しますと、これは現状 0.32 よりも 0.35 になり、より浸透しやすくなるということになります。浸透マスの設置がいま盛んに行われていますが、その効果を検証するためにこのような試算をして小金井市だけではなく、更に上流の国分寺や更に下流、と野川流域全域でこういうような検証をしていく必要があるのではないかと思います。次、最後お願いします。これからの流域を考える際の課題です。ひとつは水量で、湧水の実体と復活ということで、流域全体で浸透マスの効果を検証していくということですね。水収支を見積もってこの浸透マスがどういう効果的なものかということを見積もっていくこと。それから水質です、合流式の下水道、これは水量に関しても余分な雨がかなり下水処理場まで行ってしまっているという事もあります、これも水質分科会の方で問題になっています、増水時の水質改善のために、これを何とか改善をしていく、水量が増加をすれば当然自浄能力も強化されて水質も自然に良くなるという事が考えられます。それから生きものですが、湧水性の生物と生息環境の保全をしていくという問題だとか、在来種と外来種の問題、これも大きな問題になりますので、このようなことを今後考えていく事が大切なことだと思います。もう 1 つ提案したい事は、野川の流域に例えば上流、中流、下流で長期モニタリングサイトを設ける。地球規模の環境問題、例えば地球温暖化により気がつかない間に環境が変わってしまうということが起きていますので、長期間 100 年単位でモニタリングをしていこうではないか。そういうサイトを設け市民参加でモニタリングの推進をしていく。今までのデータは 20 30 年ぐらい溜まっていますので、これから 50 年ぐらい頑張る。我々が頑張れなくても小学生がまだい

ます。小学生が大きくなってまたその次の世代に伝えていくということで、100年を俯瞰して昔、さらに現在、それからこれからを見据えて元気な野川を次世代に伝えていくということが大事ではないかと考えています。簡単な話題提供でしたが、以上で終わらせて頂きます。ありがとうございました。

4. 各分科会の活動報告

進行役 どうもありがとうございました。それでは続きまして野川流域連絡会、3つの分科会がございますが、それぞれの分科会の活動報告をお願いしたいと思います。まず始めに水量分科会の活動内容につきまして、水量分科会のまとめ役でいらしてこの流域連絡会の副座長でもいらっしゃいます神谷委員のほうから報告をお願いしたいと思います。なおご質問ご意見等につきましては、一連の報告が終わりましてから受け付けたいと思いますのでよろしくお願い致します。

まとめ役 水量分科会の神谷でございます。水量分科会は野川復活大作戦ということで1期から始めておりまして、続・野川復活大作戦ということでご報告したいと思います。野川の問題は何といても水が無いという事で、今年もまた野川が干上がってしまったということで、水の無い川は川と呼べないという悲痛な叫びがあるわけで、かつての清流を取り戻すために野川の水量復活大作戦を進めているということです。まず水量分科会で取り組んでいる事ということで目標ですね、いつもきれいな水が流れる野川を取り戻すためにということで、3ステップあると思うのですが、湧水と地下水の保全、それから雨水浸透の促進、それから雨水活用の推進。守る・育む・創るというようなことで、これを野川の水量復活大作戦というように位置付けているわけです。1番目の湧水と地下水の保全ということでまず大事なことは壊さないということ。これはマンション建設や道路工事の問題が分科会でも常々話題になっていました。それと地下水の汲み上げの問題、水道の流量阻害の問題ということで、大きかったのは真姿の池の上のマンション工事ですね、それがちょうど第2期と重なってしまっていたので、まずそういう壊さないということの問題ですね。それから2番目に雨水浸透の促進ということで雨水浸透マスは確かにたくさん普及しているのですが、そろそろそれを検証する必要があるということで、これを見ても解るように小金井市は全国でも一番の普及率ということで頑張っている、でも野川はそういう状態で効果がどういふふうに出ているのだろうかということですね。次、お願いします。もうひとつ3番目は雨水活用の推進ということで、そういうなかで市民にも出来ることを実践していこうと、都市にミニダムをつくろう、もっと雨水を活用しようと、飲める水をトイレに流すのはもったいないということで、水道の節水をする、そういうことを通して都市の環境用水、水利権の環境再配分を求めていきたい、そんなことをやってきたわけですね。はい。ということで、2期で取り組んできた具体的な課題について簡単にふれたいと思います。4つほどあります。水量の維持、これは流量の調査検討等を行っています。用水路の再生、砂川用水プロジェクトということで3つのプロジェクトを立ち上げている。それから地下水の涵養、浸透量と揚水量ということを検討しています。それから雨水の活用ということで、市民の雨水活用も始まっている、そんなことですね。まず水量の維持について流量の調査検討ということで事務局も非常にこう頑張ってたくさんの調査資料を作って頂きました。そんなことで5つほど内容がありまして、水量の確保、河床粘土張り工事の効果、湧水時の状況・かつての野川、旧河道調査、水源の根本的改善、水利権の環境再配分ということで、はい、次、お願いします。まずその水量の確保ということで一昨年大変な湧水でこのような異常事態宣言というものをしました。これによって都議会で取り上げて頂いたということで、若干対策を講じる方向に向かったということです。それと野川の整備計画のなかで納得流量という話が出てきています。野川のあるべき流量はどういうものか、これは今後納得流量の議論をしていきたいということですね。はい、次、お願いします。河床粘土張り工事、緊急対策として東京都が工事を進めてきたものですが、それにあたっては緊急対策としてやむをえないけれども、生態系に対してどうなるだろうかという心配があったのですが、まず対策をした上で生態系の回復を見守りつつ、次の対策へと。仮に地下水が戻るようであれば逆に粘土張り問題になることもあるかもしれないということもありますが、まずはとにかくこういう事も必要だということですね。はい、次、お願いします。それで湧水になるといろいろな事が見えてくるということで世田谷の方ではかつての沼が姿を表したということで、どうも水が落ちる所と湧く所ということで昔の野川の生態、生きものの違

いもあるということで、野川の生態がそういう時にも見えてくるということで、湯水期ならではの調査ということもあるだろうという話がありました。旧河道調査ということでやはりその旧河道の所で水が落ちている所ということもありそうなので、水が入ってきているということですね、変遷を知ろうということでそういういろいろな航空写真を集めたりということでやっていますが、去年は大きな溢水がありましたのでちょっと見落としていました洪水についても考えていかなければいけない、そんな議論が出ています。はい、次、お願いします。水源の根本的改善ということで最終的には源流、例えば小菅村でやっているような森林再生事業、そういうところと連携して下流からも上流を支援して水を増やすということをしなればいけないのではないかと、その上でそういう努力もした上で再配分をするという話につながるだろうという。はい、次、お願いします。それで水利権の環境再配分の話は、まだこのへんは話だけなのですが、玉川上水自体はかつて全ての東京の川に水を落としていたわけで、農業用水であった多摩地域の分水が都市用水に変わってきていると、それに対して今の時代、これからはもう一度環境用水として再配分していくと、そういうこともそろそろ考えるべきではないかと、そういう議論をしています。さてそういうなかで、用水路を再生しないとそういうことは出来ないということで、砂川用水、野川にとっては親用水のようなものですがそのプロジェクトを立ち上げよう、それでそれぞれの地区で深大寺用水、入間川、それから小金井用水、恋ヶ窪用水、例えばそういうプロジェクトがいま立ち上がっています。それで分水を野川に直接導水するとか自然水を流すことによって浸透を促すという様な事を目標にしているということです。次、お願いします。砂川用水プロジェクトですが、これは全体、野川の流域全体に水を配っている元の用水ということで、そこからいくつもの分水がある、その中でも可能性のあるルート进行调查しようということで、これは第1期の大きな成果です。小さな絵のようですがこれを作るためには各地域の用水路網のマップを全部つなげて、さらに現状、使っているかいないかという事も含めて自治体に投げ返して、それをまた戻して作ったという大変貴重な地図です。はい、次、お願いします。それで例えば三鷹・調布と世田谷地域では入間川再生プロジェクトをちょっと起こそうということで、入間川の歴史の掘り起こしや深大寺用水を含めて歩こうと、読本作りもしようということで歴史の掘り起こしなどもしています。次、お願いします。それから小金井については一番水がなくて困っているところですが、小金井用水プロジェクトということで幾つか可能性のある小金井分水を歩いたということで、築樋のような歴史的なものの保全も含めて課題がありそうだと。市民の街づくり団体とも連携して、自治体も入っていただいでようやくスタートラインについたということですね。次、お願いします。同じように国分寺についてもまずは歩いてみたということで、国分寺の胎内堀などもまだありましてそういう保全の課題もあると思います。自治体の計画等々の調整もこれからですがまずは歩いてみた。そういうことで地下水の涵養という事になると、涵養量と揚水量という話になるわけですが、地下水、一方で回復しているという話もありますが、それは下町の話で、武蔵野台地のほうはまだ回復は緩やかであるということです。底抜け状態が続いている。雨水浸透だけでは限界があるのではないかと、そういう話を議論しています。次、お願いします。ということで涵養域の把握と浸透マスの設置方法、浸透マスの普及は進んでいるがどういう効果が出ているのか、それから湧水の涵養域や地下水の流水方向どうなっているのか、浸透は追跡が必要だということで、これは全数を小金井市の浸透マスを落とした地図、これは事務局がこれも大変な作業をして作られて、世田谷もどうしても欲しいという事で関連する部分だけですが調べました。これを見ると数や普及率ではなくてこういうふうに地域的に粗密があって、大学用地であるとかそういう所にはなかったりとか、いろいろな課題が見えてきた。これをどう活用するか、大事な図面なのでこれをどうするかと議論をいましています。次、お願いします。地下水の利用の実態ということで揚水量の問題がどうしても避けて通れない、しかもそのほとんどは水道用の深井戸だということで、場所によって湧水に近いところだと当然影響も大きいということで、ちょっと水道水源との関係もこれから精査しなければいけない。そのなかで適正な揚水量ということも考えざるを得ないだろうという話もできています。次、お願いします。それで地下水利用の、そうはいつでも美味しい水が飲みたいという事もありますので、水の使い方を考えるときに、適正な揚水量なりルールが必要になる。これはちょっとつい最近出てきた多摩川系の資料ですが、野川と浅川

の水収支を比べてみると野川の場合には、先ほどの小倉先生の話にもありましたが、全体の降水量に対して使っている量が多い、降水量以上に使っている、それから地下の浸透量を考える、涵養量ですね、涵養量以上に汲み上げをしている。全体的として野川の水収支がマイナスだということですね。それで浅川のほうは普通のそこそこプラスの収支になっている。おそらく多摩川流域全部とってみてもこういうマイナス収支は野川流域だけに出てくる現象であるというふうに想像されます。これが野川の実体です。はい、次、お願いします。そういうことで市民もいま雨水利用の促進という事で、何かしなければいけないという事で雨の学校プロジェクト、このようなものが立ち上がっているという市民レベルの活動も報告されています。大学でエコハウスづくりというようなこともやったということで、市民の役割が大きいということですね。それから水利用の見直しも不可欠だということです。次、お願いします。これはまだ学習会レベルなのですが、例えばドイツの事例等々のなかで、やはりインセンティブを、下水に流さないというインセンティブを与えて浸透とか蒸発散を促していくと、そういうドイツの事例とかですね、それから韓国ではもう雨水を法律化して全ての都市建築の雨水貯留を義務付けるという方向でいま進んでいるというふうなそういう学習会もありまして、根本的な解決のためには制度の見直しも大事だという話をしています。次、お願いします。そんなことで第3期に向けて水量分科会のまとめと課題ということで、ひとつは湧水・地下水の保全とその開発のありかた、2番目に地下水の涵養に関してその効果の検証が必要だろうと、3番目に野川の流量に関して納得流量の煮詰めをしたいと、それから4番目に新しい話として洪水時の対策、これも雨水の利用と制御ということを検討していきたい。それから導水計画ということで野川に何とか水を確保していきたい、そういう水源確保の問題がありそうということです。では最後です。そんなことで、続・野川復活大作戦ということで、もっと野川を知りましょう、湧水を守り清流を取り戻そう、用水路を活かしてまちを水でつなげていこう、雨水で水を生み出そう、自然再生に取り組みよう。そんなことが続・野川復活大作戦ということで取り組んできたということです。以上です。

進行役 続きまして水質分科会の活動報告をお願いしたいと思います。分科会のまとめ役の倉持委員さん、お願い致します。

まとめ役 水質分科会の倉持です、よろしく申し上げます。先ほど水量分科会では水の無い川は川とは言わないみたいな話がありましたが、水があればいいというだけではありません、川の水質も大事だと思っています。水質分科会、実は取組みを始めてやっていくなかで、水量分科会ほどのデータの蓄積とかそういうものを行っている状態では今はありません。ただ話をすればするほど水質の事、何でこんな水質の事をみんな知らないのだろうというぐらい色々な課題が浮き上がってきたというのが第2期の水質分科会でした。次、お願いします。水質分科会で取り組んできたのは上にある三つ、野川の通信簿づくりというのをこれまで3ヵ年やってきています。それから水環境マップづくり、続いて野川水環境カレンダーづくり、そういったものを具体的な行動として水質分科会では扱ってきました。それに加えてカッコで括ってあります5つの課題、下水管からの越流水対策、表面管理の不足、河川のゴミ対策、それから水質としては子どもの遊べる水質に、湧水の水質を保つ、こういう5つの課題について毎月、分科会のなかで意見交換をしてきました。次、お願いします。野川の通信簿づくり、これは今日この後、発表があると思うので、さらっとふれるだけですが、小金井の南小学校の6年生、今年は年長の6年生を対象にして野川の通信簿づくりを行いました。今年やったのは、15、16、17、3年連続やったのですが、そのうちの3回目でした。継続していることで学校、南小は年中行事に入るようになってきているというふうに私達は喜んで理解しています。また水質分科会としては今後も野川の通信簿づくりは続けていきたいですし、今は南小1校だけでやっているものですが、これからは1校だけではなくて受け入れてくださる学校を拡げていく事が出来ればうれしいなと考えて、進めております。次、お願いします。ちょっと地図が見つらいですが、野川の水環境マップ、このマップは情報バザーの時に、良いところマップと悪いところマップの2種類を提示しておきました。そこで皆さんから井戸の話であったり、幾つかの書き込みも頂いております。その書き込みについてはまた後で水質の係りの報告もありますが、野川の水環境マップ良いところ悪いところ、これを作り始めたのは水質分科会で話をしていると、最初に思っていることは何かということ、参加している人が上流

の人間と下流の人間とそれぞれいるのですが、意識がぜんぜん違うんですね。上流、国分寺とか小金井あたりに住んでいる人は野川というとサワガニがいたりとか子どもが水の中であそんだりとかきれいな川です。しかしこれが狛江とか世田谷とか下流の人になると、雨が降った後はウンチがブカブカ浮いていて汚い川だ、とんでもないというふうなことで、野川って良い川だよという人と、野川って雨が降ったら大変だよと、ひとつの川なのにぜんぜん意見が違う、しかも20キロそこそこの自転車で1日で行って帰ってこれるくらいの距離にもかかわらずそういう意識の違いがあるということで、じゃあ野川はいいというものなのか、地図に書いてみようということで、良いところ悪いところマップをつくりました。成果は情報バザーの方に貼ってありますので帰り際にでもまた見ていただければと思います。次、お願いします。5つの課題ということで最初に下水管からの越流水対策、これは実際に雨が降ると野川に下水道の雨水がそこから出てくる、道路の排水溝から出てくるというところなどで、汚れた水がいっぱい出てきますということがあります。実際に雨の後にはトイレトーパー、ウンチが流れている写真なども分科会で提供されたことがありました。これは幾つかのもので調べた話なのですが、あるいは情報提供されてものですが、雨が降った、降っている時は、野川の汚れは晴れているときと比べて10倍汚れが大きい、またこれは実際に世田谷で調べた2004年6月の雨の時に、その日の雨は全部で10ミリ程度降った雨なのですが、降り始めてから3ミリ目でもう既にウンチが流れ始めたというような、3ミリぐらいの雨はたぶん雨の降る分量としてはそんなに、決して多い分量ではないと思うんですね。3ミリぐらいならば、ざっと降った雨、ざっと降ると3ミリぐらいだと思うのですがそれぐらいでも越流する。上の地図に書いてある赤い三角印が付いている場所は、それは公共下水道の雨水が出てくる場所でして、そういうところはやはり雨の後にはやっぱり臭いがしたり、フェンスみたいなスクリーンのところにはトイレトーパーなどがこびりついていたりすることがあって、汚れがずいぶんあるんだなということを再認識したものです。次、お願いします。表面管理の不足、1つ前の雨が降るとウンチが流れるというのはまあ聞いた事はある部分でもあったのですが、表面管理の不足、これはちょっと教わるまでは思いもよらなかったものです。これはもう下流特有の問題ということなんですが、多分20年ぐらい前、20年ぐらい経つのかもわからないですが下流の方では野川を一旦整備した後に上流の方から土砂が入ってきたりあるいはヘドロが堆積したりとかして、昔むかしの野川の川底よりもいまは随分上がってしまっているそうなんです。50センチ近く上がっているんじゃないかなという、見た感じの印象を持っている方もいるそうです。そうなるとうとうどういふことがあるんだとうとう、コンクリートの構造物のあるところより上にはそういうものが貯まって草が生えて、そういうところはゴミが引っ掛かりやすくなったりします。それからコンクリートの構造物よりも低いところは、下流のほうはまたそういう所が削られてそこがだいたい削られたところ、削られたところは深くなるのだけれども、その下はまたすぐ堆積しているの、ここはプールになってしまって汚れた水がそこに溜まってしまおうと悪臭がする水が滞ってしまうという問題があったりして、そういうふうには表面管理をしないがために草のところにはゴミが溜まるし、その後は汚れた水が溜まるし、ということが野川の水質を悪くしている1つの原因になっているのではないかというふうな話がありました。ただこれは本来、もう少し川を掘り下げて野川は完成するのに、いまはまだ途中だからしかたないという説明なども頂いたのですが、ただ実際には住んでいる人の話ですと、野川は臭いというような時期がある話を聞いているもので、次、お願いします。河川のゴミ対策、野川ではゴミ拾いの活動を盛んにやっています。それは市や区が主催しているものもあれば団体が主催しているものもあります。皆さんも、今日来ている方などもゴミ拾いの活動をしている方も多いと思いますが、ゴミ拾いの活動は参加すると自分の後ろにゴミが無いというぐらいにきれいになってくると、とても達成感がある活動なのでこれはぜひどんどん広めていきたいものだなと思うのですが。ゴミ拾いといっても、これもまた上流と下流で違いがありますし、このゴミで水中にあるゴミと水際、高水敷、歩道にあるゴミそれぞれいろいろあります。いくつか言うならばコンビニの傍に多かったりとか、犬の糞等が下の歩けるところなどに多かったりして、犬の問題については生きもの分科会で、野川ルールのなかでも少し取り上げて頂いたようなので、そちらのほうから少し報告して頂けるとありがたいなというふうに思っています。ゴミについてはこれも

情報バザーでパネルをつくって報告してはありますが、上流から下流までそれぞれゴミ拾い活動をやっているところがあるのですが、それがそれぞれバラバラでされているので出来れば、野川の一斉清掃の時期をつくってみたりですとか、あるいは6市1区それぞれゴミ拾いの行事に参加するとスタンプラリーみたいなものを作ってあげれば面白いのかな、そういう提案なども分科会では話し合われていました。子どもの遊べる水質にということで、野川は先ほど話があったように3ミリ程度の雨でもウンチが流れるということで、本当はそういうふうに汚い部分もあるのだけれども、でも子ども達がいつも遊んでいる川でもあります。それでいま出来ることとしては、そういうふうには雨が降った後には汚れていますというのを、ウンチが流れていると直接的に子どもに言うのもちょっといかがなものかとは思いますが、そういうふうには、少しはそういうものも解るように説明をする必要があるのかな。子どもなどはもう別に水を飲もうとしなくてもいじった手を普通に口に入れてしまうことなどもあったりしますので、そういう事が無いよう気をつけなければいけないというふうには考えているところです。それから目指す水質ということで、これは分科会のなかで、そんなに詰めた話をしている訳ではないのですが、水質の基準というのは幾つかあるよねという話題ぐらいは出されていて、例えば海水浴場、海の話ですが海水浴場の基準であったりですとか、後は水道水、川の水を水道水源として使う時の水質基準であったりですとか、そういう幾つかの基準についての話がされました。いま野川はD類というふうに決めているものです。次、お願いします。湧水の水質を保つということで、これは絵にも書いてありますが上流の人と下流に住んでいる人の意識が随分と違いますね、下流の方では本当にオーバーフローの対策とか表面管理の話とかというものが中心なんです、上流の人は野川の水質をどうしようという時には湧水を増やそう、湧水の川が野川なんだという意見が多くのところからのものでした。これはもう湧水についても、次、お願いします。野川の水質の課題ということで上流と下流で意識が違うということもあって、ここでは情報を発信する、交流活動をするというふうには書いてはありますが、例えば湧水を保全しようというひとつとっても水質分科会としては湧水をもっと、良い水質、湧水の量を増やしたいという事があるのですが、上流と下流とでその部分は一致してはいても、じゃあ取り組もうという時に、水質の意識が違う部分があるので、というのはもう上流と下流とでお互い情報を発信しあって、お互い上流の人は下流、下流の人は上流にお互いに行く交流を深めていきたいということです。続いて水質の実態も良く解っていないというのは、水量は見た目で水が多い少ないと解る部分もありますが、水質はちょっと見ただけでは解らないものなどもありますので、関心をもってもらうためにもっと調査をして調査結果を公表したりしていきたいということも。市民が取り組めるところがまだ出来ていない部分が幾つもありまして、普及活動を進めると書いてありますが、これがもう水質分科会の第2期の結論に近いようなところです。野川の水環境のイベントカレンダーというものを水質分科会でつくりました。それは何かというと、本当はイベントカレンダーでお終いではなくて本当は生活改善まで取り組めればなと思ってはいたのですが、それよりもずっと前の段階なのですがイベントカレンダーをつくっていま野川ではどういう事が起きているかというものをカレンダーで解るように、あるいは4月の第3週はどこに行けばゴミ拾いをやっているとか、この日はどこかで桜が見られるとか、そういう生活の中に野川はいつもある、そういうカレンダーをつくって生活の中に野川を取り入れて欲しい、そういう普及活動をしたいというのが水質分科会の今回のまとめ。第3期はもう水質分科会という名前でもなくとも、普及分科会とかそれぐらいのつもりでも構わないぐらいの取組みにしていって野川のいろいろな課題を生活の中に入れていきたいというふうには考えています。発表は以上になります。

進行役 どうもありがとうございました。ではもうひとつの分科会、生きもの分科会の報告をお願いしたいと思います。まとめ役の平井さん、よろしくをお願いします。

まとめ役 水量が確保されて良い水質になればたくさんの生きものが住めるという生きもの分科会の平井でございます、これから報告をさせていただきます。生きもの分科会では第2期として大きく3つの活動を行いました。1つはずっと継続してやっています生きもの観察会、それから野川公園に池と小川、ピオトープをつくりました、最後が野川ルールということで野川との付き合い方を考えてみました。次、お願いします。最初に生きもの観察会ですが、第2期では残念ながら上流下流ともに1回ずつしか観察会ができませんでした。

冬だったものですから、本当に川の岸辺の草も非常に少ないし枯れていまして、ちょっと淋しい状態だったのですが、大変多くの方に集まって頂いて観察会をやりました。特に上流をやった時は雨だったのですが大変熱心に皆さん観察をして頂きました。これは流域の六市一区の市報区報に広報をしまして募集をして集まった人たちです。はい。いろんなことをやったのですが主に植物をみる、といっても冬でしたので花の咲いているものは全くなって岸辺のくさ、これは桑の木ですがまだ実生から大きくなっていませんが、こういう木を見て先ほどのゴミの問題を考えたり、鳥を眺めたり。はい。それから水の中の生きものを調べたりしました。これは湧水の所にいたものですが、ここらへんはオニヤンマ、ホトケドジョウ、サワガニ、シマアメンボ、それから野川にいるメダカ、こういったような生きものを実際に採集して皆さんで見せて頂きました。こういうふうに採って見ないとなかなか水の中の生きものは解らないですね。川の上、橋の上から眺めても鯉ぐらいしか見えませんが実際に川において岸辺をみたり、双眼鏡で鳥を見たり、水のなかの生きものを実際に網で捕まえてみたりするといろんな事がわかってきて、この川がどういう場所なのか、いまだどういう状態なのかというものが解ってきます。そういう意味でもこの水辺の観察会というのは今後も続けていきたい活動のひとつです。次ですが、すいませんその観察会をする時には、こういうような第1期でつくった野川のいきものガイドブック、これは野川にいる代表的な生きものを、植物、生物、鳥各々25、6種類ずつぐらいを選びまして、その生きものをずっと追いつける事によって野川がこれからどういうふうに変っていくのか、そういったものの指標になる生きものをだいたい選んでガイドブックに掲載をしています、そのガイドブックを皆さんにお配りして観察会を進めました。はい。次に行いましたのが今年の5月と9月ですが野川公園の自然観察園にいくつもの湧水を利用した池があります。この池からの流れ、湧水の流れを利用して野川の河川敷に2ヶ所、ホタル池からの水とヒョウタン池からの水と2ヶ所を使って池と小川、ピオトープを作りました。はい。これが工事の前です、野川に注いでいる湧水の水路というのはほとんどがこのような土管、あるいは急傾斜のコンクリート側溝から野川に放水されています。こういう状態ですと、春になると本来はこういう水路にのぼって卵を産みたいドジョウとかメダカあるいはフナ、そういったものが全く利用できません。このままでかれこれ、確か河川改修は昭和41年ぐらいからなので、掘り下げによって断絶してしまって土管から放流されている湧水をもっと生きものが使えるように良くしたいというのがこの活動の発端です。今回工事したのはこのホタル池からの水が流れているところ、それからヒョウタン池からの水。ごくわずかなのですが、こういうパイプから出ているところ、この2ヶ所で工事をしました。工事にあたりましては市民を公募しまして市民の方の参加も得てやらせて頂きました。こういうふうにみんなで集まって、まずは眺めて考えました。はい。設計図をつくって実際当日皆さんで集まって、こういう河川敷の部分、こちらが野川の本川ですね、この河川敷の部分に小川を通すという作業をしました。工事にあたってまずうどん粉ですが、流れてもあまり害が無いと思いましたが、うどん粉を使いましたが、うどん粉で池の形、水路の形を地面に書いていきます。書いたところに沿ってこういうふう掘っていきました。はい。これは上流の方のホタル川といま呼んでいます。湧き水が放水されている土管です。そこに小さな水を受ける部分、池を造りまして、だいたい80センチぐらい掘りましたか、そういったところから水路をこういうふう延ばしました。掘りあげた後に粘性土を入れてこうやって付き固めます、付き固めたところに杭を打ちます、杭の間に小枝ですけれどソダを入れてシガラというものを組んでいきます。こういうかたちで水路ができます。この中に砂利とか石を敷いて小川にしたわけです。はい。出来上がったのがこの形です。これは今年の1月ぐらいの写真だったかと思いますが、流れている水をこういうふう池で受けてその後水路に流して斜めに緩やかに野川に注ぐようになっています。この池のすぐ傍にこういう看板を立てています。この池と小川には野川公園の湧水が流れています。魚たちが卵を産んだり、大水や水涸れの時に避難出来るようにみんなでつくったものです。大切にしましょう。通称ホタル川というような看板が現在立てられています。ここを今年の1月に生きものの調査をしました。その結果がこちらです。小さくてちょっと見にくいかもしれませんが、当初、期待はしていたのですが、なかなか入って来ないだろうと思っていたホトケドジョウ、これは湧水が大変好きなドジョウです。一応、絶滅危惧種2類になっています。その絶滅危惧種は早速1月にもう入ってい

ました。湧水から野川に落ちたドジョウだろうと思うのですが、登れる場所を探してずっと湧水が注いでいるところで待っているんですね、そこに小川のなもので登ってきてくれたんだらうと思っています。それからもうひとつ特徴なのが石ころにみえますが、ここに足があります。ニンギョウトビケラというトビケラの仲間です。これはきれいな水が好きなたびケラです。こういったものが池を造って小川を造ってから僅か半年で入って来ました。生きものというのは常に新しい住処を探してうろつき回っています。ものすごく狭いところでも生きますし、とても住めないだらうところにも入ってしまいます、それぐらい生きもの力というのは強いので、その生きもの入り方を見ていけばそこがどういう環境だらうというのはよく解るかと思います。それから量的にはミナミヌマエビがここでは7人で15分間取りましたが400匹、アメリカザリガニが20匹、こんなにいるんですね。それからヒョウタン川というのは先ほどの非常に水量が少ない川ですが、その特徴はサカマキガイとかミズムシ、少し汚れた水まで住める生きもの、そういったものがあります。それから落ち葉とか石の下に潜り込むガガンボ、そういったものが多く見られます。勿論ヌマエビとかザリガニもいますが、こちらの水の多いホテル川とヒョウタン川では生物層が違いました。このへんもこれからピオトープを造っていくときの非常に参考になると思います。最後、野川ルールですが、この野川ルールを考えることになった発端は、やはり私たち皆が野川と楽しく付き合いたい、ところが楽しく付き合う、野川は非常に良い環境を持っていますがその環境に対する価値観、一人一人皆さんいろいろ違う。例えば水辺の草木、これを切ったほうが良いという人もいれば切らない方が良いという人もいます。鯉にエサをやる人もいればエサをやらないほうが良いという人もいます。非常に価値観の違う人たちが皆で野川を利用している。その利用の仕方、付き合い方にある程度一定の総意を得たルールがあったほうが私たちも野川のことをこれから考えて良くするためにそれなりの方向性が見出せるだらう。当然行政の方が野川を管理していく時にもそういう総意、ルールがあったほうがこれからの野川の管理に対して一定の方向を見出せるのではないかと。そういうことで野川ルールという、ちょっとルールという少し硬い感じも受けるのですが、緩やかな合意形成をみんなで考えていったらいいじゃないか、というのが発端です。皆さんでいろいろテーマを出していただきました。生きものを採集する、エサをやる、河川敷の草や木をどう管理していったらいいか、ペットの放流をどう考えたらいいか、犬の散歩、ゴミ、このへんまで今まとめていまして案をつくりました。今後この案につきましては更に住民の皆さんと合意形成をして、更に行政との調整も図った上で広めていきたいというふうに考えています。具体的に少し中身をご説明致します。はい。これは表紙ですね、野川と皆が楽しく付き合うためのルールを考えましたということになっています。はい。最初が生きものへの餌やりについてその1ということで鯉や魚に餌を与えると、ということになっています。ぱっと見てイラストが書いてありますので、ルールというと箇条書きで何をしてはいけない、いけない、そういうものを思い浮かべられる方もいらっしゃると思いますが、このルールを考えるにあたっては否定的なことは極力書かないようにしましょう。こうしましょう、ああしましょうという前向きな言葉で書くようにしましょうということにしました。それでこれでいきますと、ああメダカだということ子ども達、お母さんがメダカを見えています。そばでは生きものへの餌やりということでお年寄りが鯉に餌をやっています。鯉の言葉ですが僕たち鯉は強いのだ、小さな魚も食べちゃうよと乱暴かもしれませんが、その結果鯉ばかりになり余った餌が川を汚す、小さな魚たちがいなくなる、そういったことで魚への餌やりは強い鯉が増えすぎたり、川が汚れる原因になります。ということで抑制的な書き方ですがこういうふうなまとめをしています。それでいまはルビをふっていませんが将来はやはりお子さんたちにもこういうのをもう少し解り易くしてお配り出来るようにしたいなと考えています。2番目、これ鳥です。カモや鳥に餌を与えるとということで、生きものに餌をあたえるよりも生きものが住みやすい川づくりをした方がいいですねというふうに言っています。はい。次が生きもの採集についてということで、お父さん野川にザリガニを取りに行こうよという子どもがいて、いっぱい獲れました。獲れたものをどうするということで相談をした上でどうしても飼いたいもの増やしたいものをもって帰って残りは放す。もしくは家に持って帰って増やしたものを放してくれる、こういうことで野川にはたくさん生きものが住んでします、みんなで観察してみましようというふうになりました。はい。次が草刈り

です、草刈りや木の管理を考えようということで、いろんな問題が、ゴミの問題とか犯罪の問題とかいろいろあるのですが、そういったものを自分たちでも調べて行政の方に相談をしましょうというのがひとつの野川でのルールではないかなと。皆で話し合って調べて相談をするというのがルールではないかというふうに考えました。はい。次がペットの放流です。これは実は大変救いようの無い問題で難しいのですが、犬猫でしたらまだペットを保護して頂けるような団体もありますが、野川で水生の生きものを考えた場合、例えばミドリガメとかグッピーとかがいた場合だれも引き取ってくれないんですね。そういったものが最終的にはどういふふうになるのかという事を考えるとちょっと救い道の無い課題ではあるのですが、当たり前ですがペットを飼う時には最後まで飼い続けましょう、川へ流すのは止めましょうというふうなつくりに致しました。最後はゴミですね、野川からゴミを無くす一番の方法はゴミを捨てないことですね、というふうにやっています。ここでもいろいろな努力があるのですが、皆で一緒にきれいにしよう、行政にも相談してそれを進めていきたいと思いますという過程が描かれています。最後散歩ですね、犬の散歩。犬の散歩もごく当たり前のことなんですけどやさしい犬に育てよう、噛み付かない犬ですね。犬の糞は持ち帰ろう、散歩の時にはリードを付けよう、そういったことが書かれていて、皆の野川を楽しくするためにルールを守りましょうというふうになっています。以上のようなことで野川ルールがありますが、この野川ルールに付きましては先ほど言いましたようにまだ案の段階でございまして、いきなりこれを公表するということではありません。これからいろいろな野川の地区に出かけて行って、住民の方、あるいは行政の方とも話し合いをした上で、こういったものを完成させてルールとして公表していきたいというふうを考えています。最後に第3期に向けての今後の活動なんですけど、生きもの観察会に付きましては先ほど言いましたように大変良い活動だと思っていますので継続実施をしていきたい。それからホタル川ヒョウタン川を造りましたが、あれも大雨のたびに少しずつ崩れたりもしています。それをこの会、あるいはこの会が中心となって地元の方たちと継続的な管理をしていく必要があります。こういうような課題があります。それから野川ルールの合意形成、完成公開、それは先ほど述べた通りです。それから話だけ出ていて、1回だけ川をぐるっと歩いたのですが、まだ進展していない課題があります、野川環境マップの検討作成ということで、これは水質分科会とタイアップしながらやっていければと思っています。以上が今後の3期に向けての課題でございまして。以上で説明を終わります。どうもありがとうございました。

5. 野川の通信簿

進行役 活動の報告をして頂きますので、どうぞ皆さんも壇上に上がって下さい。藤崎さんと一緒にこちらで発表して頂きたいと思っておりますのでお願いします。

都民委員 どうぞ真ん中の方へ、私は端の方で。南小の方々、ありがとうございます。今日はあなた方が目玉ですので、皆さん期待していると思います。私は流域連絡会、6年のお付き合いですね。最初から水質分科会に絡んでいまして6年前に水質分科会のまとめ役をやれということで始まりまして、野川の水質というものを議論し始めたんですね。そうしましたら先ほどから話しが出ていますように上流中流下流で野川という川に対しての住民の考え方というのでしょうか、見方というのでしょうか、全く違うんですね。例えば国分寺、これは三面張りの人が近づけない環境ですよ、皆さんご存知のように。小金井は非常に環境がいいと思いますね、小金井市内の野川というのは、公園も非常に多いですし。二枚橋から下流にいきますと野川というものに対しての皆さん方の考え方が全然違うんです。というのは先ほどもお話しがありましたように下水のオーバーフローが雨の時に入ってくる、皆さんご覧になっているんですね、だから意外に汚い川だというものがあります、その水質のほうから言いますと。それと水量の面から言いますと、先ほどから野川が涸れるよという話がありますが、じゃあ本当に涸れているのはどこか、いま涸れています。ところが小金井市内だけです、涸れているのは、国分寺は涸れていません、二枚橋の下流にいきますと全く涸れていないですね。それで野川という川はたった20キロの流程の川なんですけど、非常に環境が違うということがひとつ感じました、そのなかで。それでもうひとつ、水質というものに対して、例えばBODなどという数字でよく議論されるのですが、BODだけでは議論できないですよ、よく議論されているのは去年のBODは良かったとか今年は良くないとかというのは話しが行政だとかそういうところに出

てきますが、年間平均値で議論をしているんですね、だけど実際に住んでいる人は違いますよね。水がどっと増えた時に汚水がどっと出る、1ヶ月も経てば水が無くなっちゃう、そういう川ですからやはり住民の方がどういう形でその野川の環境の保全に対して絡んでいるかというのが非常に重要だということを感じたわけです。それが野川の通信簿というものが出来たひとつの理由です。それと上流中流下流では全く考え方が違うので、何かその、たった20キロのなかで上中下流の皆さん方で何か共通のものを資料として使って何か出来ないかということ。それともうひとつは最近はやりの言葉で言えば要するに協働なんて言葉が、要するに行政と民間がうまくリンクして行政の施策に反映できないかというようなことです。そんな狙いでですね、入口で皆さんご覧になったかも知れないですが、野川の通信簿というものをつくってみました。川の通信簿というのはいま結構あるんです、全国でやられているのですが、野川の通信簿の狙いというのは、本当は官民一体となって何かできないかというような、要するに仕組みとして何か出来ないかなというのが本当の狙いです。ですから今日は南小の方々、実は過去3年間協力して頂いて通信簿を付ける日を決めまして半日時間を取って頂いて、この流域連絡会の委員の方も参加して頂いて、非常に楽しみながら、多分皆さん楽しくやって頂いていたと思うのですが、やっているのですが、実はそれでお終いではなくてそれを今日みたいな発表会を定期的にやることによって行政の試作品、何か反映できないかなというのが、さっきも、くどいようですが本当の狙いです。ですからまだこれは始まったばかりなんです。それで実は野川の通信簿というのは、最初は大人バージョンでつくりました。それを、ちびっ子バージョンというものをそこから作りまして小学生の皆さんにも解りやすくやって頂くような形のものをつくりました。それに基づいて南小の方々に協力して1年に1回ずつやって頂く。ちょうど制限時間の5分になりましたのでこのへんで止めさせていただきます、それでは皆さんよろしくをお願いします。

進行役 学校のほうで資料を用意して下さっているのが、学校教育用のソフトだそうです、準備のほうは大丈夫でしょうか。準備が出来次第発表のほうはお願い致します。

南小学校 これから小金井市立南小学校の野川についての学習、野川の通信簿について発表をします。礼。

まず野川に住む生きもの、野川の近くにいる鳥、野川の近くにある植物、野川の近くにある植物、野川の悩み、野川と自分について私たちの知っていることを出し合いました。

水に住む生きものではザリガニやメダカ、鳥ではカモやカラスなどがみんなの野川のイメージでもあるようでした。また植物ではタンポポ、ホトケノザなどが、さすが6年間近くにいるだけあって、数え切れないほどたくさん知っていました。野川の悩みについては、水が濁れる、ゴミがあるなどができました。私も最近野川にゴミが増えたと思う事がよくあったので、共感しました。イベント野川との関わりについては、魚釣り、虫取りなど遊んだことを出す人もいればクリーン作戦などボランティア活動をしたことを出す人もいました。

4年生の時、私たちは第1回目の野川の通信簿をしました。水の中の生きもの、パードウォッチング、植物の観察、水質検査の4つの分野に分かれて調べました。それぞれの分野に長けている専門家の方々もたくさん来て下さいました。初めての通信簿はドキドキワクワクの連続で何もかもが新しい発見でとても新鮮でした。

そして6年生になって去年の7月、第2回目の野川の通信簿をしました。またたくさんの方々の専門家の方々と一緒にいろいろと観察しました。専門家の中には4年生の時にも来て下さった方もいらっしゃいました。もう6年生だし通信簿は1回やったことがあるので野川のことはいろいろ解っているつもりでしたが、また新しい発見がたくさんありました。

水の中にいる生きものについてです。野川の水は少なかったので野川の近くにあるドジョウ池に入り、生きものを採りました。私たちはザリガニやメダカ、スジエビなどを見つけました。池から上がった後、野川の通信簿を行うためにいらっしゃった専門家の方々が朝早くから捕まえておいて下さった生きものを観察しました。野川にはギンブナやオイカワ、モツゴ、タモロコなどの魚や、カワニナ、ギンヤンマのヤゴ、ガガンボの幼虫、サワガニなどがいました。専門家の方によると関東にはギンブナはメスしかないそうです。私はガガンボの幼虫を触ったときプニプニしていて気持ちよかったです。野川にサ

ワガニがいることに驚きました。

僕たちはバードウォッチングをしました。ガイドさんが双眼鏡を貸してくれました。スズメ、キジバト、カラスなどを見る事が出来ました。なかにはオオタカを見る事が出来たグループもいたそうです。ハシブトガラスとハシボソガラスの違いは嘴の形だけではなく、鳴き声も違うことをガイドさんが教えてくれました。ハシブトガラスはカーと澄んでいて、ハシボソガラスはガーと濁っているそうです。野川にはまだいろいろな鳥がいました。しかし僕は目が悪く、双眼鏡を使うのがへただったので、鳥を見つける事は難しかったです。

僕たちは野川の植物について調べました。野川には250種類ぐらいの植物があることが解りました。そのなかでも数が多いセイタカアワダチソウは10年ぐらい前に増えたそうです。ハルガスミという植物は紫色できれいな花を咲かせ、小さく美味しそうな実を付けるのですが、茎に刺があります。鎖国していた時代にアカツメクサやクローバーで有名なシロツメクサは輸入されたガラスが割れない様に詰められていたためツメクサになったらしいです。他にもネズミモチ、ワルナスビ、アレチウリ、オオブタクサなど外国から入ってきた植物がたくさんあることも解りました。野川の周りには植物がたくさんありますが、僕は花粉症なので春になるととても辛いです。

水質検査をしました。水質検査では野川の水が少ないのでボランティアの方が持って来てくれた人見街道、側溝、水道水、やまべ橋、4ヶ所の水を使いパックテストをしました。今回のパックテストでは4年の時と違い、始めて注射器を使ってちょっとドキドキしました。パックテストの結果、意外にも一番汚かったのは人見街道の水でした。野川の水は少し汚かったです。大きな器具で野川のきれいさを見ました。すると野川は水深130センチまで見えました。意外ときれいだと思います。予想外の結果に皆驚いたり、頷いたりしていました。

学校に帰ってからは、野川の様子をプリントに記録しました。それぞれ調べて解った事を記入していき、最後は野川について気づいた事、自分が思ったことなどを書きました。

絵や文を入れて個人やグループで新聞もつくりました。それぞれいろいろなまとめがあって、自分自分で解った事を詳しく書き、掲示しました。感想では知らない事がたくさんあったので良い勉強になりました。4年生の時よりもよく解ってどれも面白かったです。仕事を休んでまで来て下さったボランティアの方がいてうれしかったです。野川の環境の深刻さが解りました、自分たちの生活と野川の環境を両立させたいです、などがありました。

12月に僕たちだけでもう一度野川の通信簿を試してみました。水が夏よりも増えていました。今年は寒いので水が凍っているところがありました。植物はほとんど枯れていました。ザリガニが石の裏に冬眠していました。生きものはあまりいませんでした。あと、野川の水の流れが速かったです。

では最後に野川の通信簿の学習を終えて一人一人に感想を言ってもらいます。

野川の通信簿の学習をしているいろいろ知らなかった事が解りました。木なども調べていてカブトムシやクワガタムシのいる木なども知りました。

身近にあってもあまり知らなかった野川のことを、この野川の通信簿を通していろいろ知る事が出来てよかったです。

野川の通信簿を通していろいろな事が解って勉強になりました。僕は植物が好きなので野川のことを調べてもっと植物を好きになり、もっと植物の事を調べてみたいと思うようになりました。

私は野川の通信簿の学習をして、野川と私たちが深く関わっていることや野川の現状が良く解りました。最近野川に水が無く、雑草が多いことも気になっています。野川は私たちの遊び場にもなっている所なので、もう少しきれいになるといいと思います。これからも野川の自然を大切にしていきたいです。

野川がいまどうなって、どうすればいいのか解りました。いま野川には水がなく、ゴミが多く見られます。私の家には野川で採ったドジョウとフナが1匹ずついますが、もう2年近くになりますがとても元気です。ですが野川にいる魚たちはどうなっているのか知りたいです。次の学年の人たちが新しい発見や発展をして欲しいと思います。

野川の通信簿を通して野川の現状やそこに住んでいる生きものなどのことがとてもよく解りました。これからもみんなが野川に親しみをもてるように、広く知られるために努力していきたいと思いました。

見た目では解らない野川の変化を知る事ができ、よかったです。また他の学年の人がこの野川の通信簿をして野川に触れてくれたらうれしいです。これからは野川の良い点、問題点などを見つけ、ずっと南小にとって良い野川であって欲しいです。

これで小金井市立南小学校の発表を終わります。ありがとうございました。

進行役 ありがとうございました。4年生の時にもやって下さって、それでまた12月に自分たちだけでも、もう一度通信簿をやってみてくださって、本当に関心を持って皆さんがやってくださった事を本当にうれしく思います。今日は本当にありがとうございました。

6. 情報バザーの報告

進行役 それではもう少し発表を続けたいと思います。午前中にあちらで行いました情報バザーの報告を簡単に皆さんからして頂きたいと思いますので、情報バザーに出店していた団体の方、それから3つの分科会それぞれお一人ずつ舞台の方に上がって、午前中の情報バザー、どんな情報のやり取りがあったかを、ちょっと皆さんにお話して頂きたいと思いますので、皆さん上がって下さい。それでこの進行に関しましては、水質分科会の発表まとめ役をなさった倉持さんにコーディネーターをお願いしたいと思いますので、マイクをお渡ししますので、倉持さんよろしく願います。

進行役 はい。座る順番は特に決まりはありませんので、どうぞ座って下さい。

これから情報バザーの報告と、この壇上にいる人たちでの意見交換というのを最初にやります。それで会場の皆さんにご意見を頂くのはその後になりますので、いまはこの壇上の方が何か言われたら受けてもらえればと思います。よろしく願います。いまからマイクを端から順に回していきますので、団体の名前とパネルのタイトルとどういう意見、若干の反応とどういう意見があったかというのを教えて頂ければと思います。一人30秒ぐらいでお願いします。何回も回りますから心配しないで結構です。では最初の団体名とパネルのタイトルとお客さんの反応をお願いします。

市民 NPO法人ひる・こらぼの堀井と申します。小金井で野川の活動と関わってまして、雨水の貯留という事に去年は取り組みました。パネルのタイトルは貯めて使って地面に返そうということで、雨水貯留に関する展示を行いました。

市民 身近な川を見守る会の出口です。私たちは中流域の調布で活動しているグループです。それで先ほどの発表のなかにも出ていましたが、川岸の水質調査をやっていたのですが、川の中に入って生きものによる水質調査というのをやりました。その発表をしました。タイトルは生きものによる水質調査だったと思いますが、ちょっと解りません。それで小金井市から世田谷までの市民が集まって先生になったり生徒になったりして、そういう交流も出ています。それで意見なんです、佐須用水、調布は佐須用水なんです、佐須用水は貴重な野川の支流であるので守るべきだというご意見、それからきれいな水を貯めておく溜池というものを流域に造ってはどうかという意見もありました。そこから野川に少なくなったときに流せばいいのではないかというご意見です。あとは雨天時対策を何とかしたい、もうそろそろ具体的に何かとにかく始める時ではないかというようなご意見を頂きました。

市民 一番下流の世田谷区で活動しています、せたがや野川の会に所属しています。野川の会自体は世田谷区の外郭団体で財団法人世田谷トラスト協会というのがありますが、そこで野川で環境活動をしようというボランティアの講習会がありまして、そこでOBが集まって活動をしております。現在40名ぐらいで活動しています。今日は活動の報告というか今までどんな事をやったのかをパネルにしましてタイトルを付けたのですが、やっている内容は植物調査、在来種と帰化植物の比率を調査しているのがひとつと、水中の生きもの水生昆虫、魚類を捕獲調査している、それから仙川との合流のところに天神森橋という橋があるのですが、その下流でオギとかヨシとか在来種を植えて昔の野川の姿を復活できないかという実験を始めております。そういう活動をしています。意見は、試験されていますかということのご質問を頂いています。それからもうひとつ・・・の課題は何ですかという質問を頂いていますが、これは後で。

- 東京都 私たちは土木技術研究所というコーナーで発表をさせて頂きました。土木技術研究所というところは都内の河川の調査とか、地盤や地下水の調査研究をやっています、野川についても以前から川の水量とか地下水、地形、地質調査をやっています。それについてそれぞれ、例えば河川の方では洪水をですね、流出特性、大雨が降った時に、どういうふうになった後に、流出が変わるか、そういったものをグラフ化して発表させて頂きました。それから2、3年ほど前から地下水を使った野川の湧水環境を調べていまして、武蔵野公園や野川公園付近の地下水の変化、地下の揚水ですね、地表がどういうふう分布してるか、それに伴って地下水がどのような方向に向かっているか、全体的な傾向についてまだ途中の段階なのですがまとめさせて頂きました。それから浅い方の地下水面と深い方の地下水面の分布ですね、傾斜が違ってしますのでそういったことについても発表させて頂きました。それから野川の流量水質と昨年度も野川公園の第一調節池、いまドジョウ池があるところの近くなんですが浸透実験をやりました。その結果についても発表させて頂きました。それから質問としてはいろいろ先ほどの地下水涵養をした時にはどの辺に実際いっているかという問題がありまして、そのへんは今後の課題だと思います。
- 東京都 東京都の環境局水環境課の飯田でございます。私どもの方では水循環再生事業としまして野川流域にいきまして、湧水に対して、湧水の保全に対して雨水浸透マスをつける事業に関して、区市に対して呼びかけていくことをやっています。本日出しました演目としましては水質と水量の関係、これがどのように変化してきたかということ、今日流域連絡会で見せたいということを出しております。水質についても改善傾向にありますし、水量についても改善傾向が見られるということになっております。それから質問については雨水浸透マスの補助制度について1件ありました。以上でございます。
- 市民 野川の下流、世田谷区喜多見で活動しています喜多見ポンポコ会議の佐藤と申します。喜多見ポンポコ会議は野川ガサガサという生きもの調査を子ども達と一緒に、1年に春夏秋冬と4回、楽しくやっています。今日は何か意見をもらったかということ、私は他の団体の方のパネルがすごく面白くてずっと違うところへ行っていたので、ほとんど自分の所にいなかったのポストイットで貼ってあるかなと思ったのですが、何も貼ってなかったので、もし何かあればここで質問して頂ければお答えします。
- 市民 小金井でドジョウ池をつくっております、野川ピオトープの会の弧嶋です。今日の展示は今から5年前、初めて水を通してあそこにドジョウ池が出来た、そこから今までの水辺の活動と、年に1回のいつも子ども達を集めてやっていますイベントの様子などをビデオで展示しております。今日はたくさんの方がいらして、そのなかで話してってくれたことで1番多かった事は、皆さん自分の子どもの頃を思い出されるのでしょうか、良い子どもの遊び場だなと、いいな、うれしいなと言う声が多かったです。その他に幾つか話がありましたが、それはまた後で報告、30秒ですから、これで私の話は終わります。
- 市民 水質分科会の鈴木と申します。小金井から来ております。水質分科会のほうで私は年が上なものですから、責任者をバザーの時にやりなさいと言われましたので、一生懸命にやったわけでございます。そういうことで私が報告することになりました。実は水質で水の質をみるということでした。水が無くては皆さんにまずいのではないかなと思ひまして、急遽、多摩川に行って、玉川上水へ行って、それから小金井の貫井神社へ行って3ヶ所から水を汲んで参りまして、今日のバザーのテーブル上に置いて皆さんに見て頂いたのですが、やはり野川の水は飲めるんですね、それで調布から下あたりでは、飲めるなんて、そんなバカな事を言うと言われるかもしれませんが、小金井、国分寺あたりは飲んでる人が非常に多いんです。そういうことですしね、水が無い時には本当に小金井も乾き、多摩川へいっている河川でその支流の野川でございますから、本来は水が無ければまずいわけなのですが、そのところ、どうしても水涸れがあると3ヶ月や4ヶ月水の無い、年間を通して多いのですが、12の方からご意見を頂戴したのですが、30秒ということで過ぎていくわけですが、もう20秒ぐらいひとつご勘弁を願いたいのですが、水質検査、生ものを・・・、大きなものを下げてみて、川に来ている魚や鳥などがあまり食べ過ぎてお腹を壊すなどと、それから先ほど小金井南小学校6年生の生徒さんが野川の通信簿、これについていろいろ勉強した事を発表して頂きましたが、水質分科会の音頭をとっていただいて、専門家の方がいますから実際に非常に効果が上がっているなということ、今日ここで生徒さんの発表を聞いて感じたわけでございますが、こうい

活動を今後も私も続けていきたいと思います。そういうことであまり発表らしい発表ではございませんが、一言報告させて頂きました。ありがとうございます。

市民 私のここからこっちが小金井市環境市民会議の平井でございます。ここからこっちがわんぱく夏祭りの会の平井です。両方ですが。市民会議の方では活動、会のご紹介とそれから活動として行った用水路調査、野川の水量復活に向けてということでパネルを作らせて頂きました。わんぱく夏祭りのほうはもうかれこれ31年の活動をしてありますが、近年4年分の活動を写真貼りにして展示をさせて頂きました。頂いたご質問とかご意見に付きましては、後で発表させて頂きます。

市民 世田谷の一番北側、上流で活動しております野川とハケの森の会の中川でございます、よろしく申し上げます。私たち普段は野鳥の写真展示で結構有名になっているのですが、基本的に活動していることは野川の清掃、去年8回やったのですが、野川の清掃活動と野川の自然をいつまでも、次の世代まで残していこうという啓蒙活動を中心にやっているグループでございます。本日展示して頂きましたのは、17年度の活動を21枚のニュースレターで貼らせて頂いたのと、他人のものを貼らせて頂いて大変申し訳なかったのですが、世田谷区の外郭団体トラスト協会の、世田谷区内の野川のマップがあるのですが、これが非常に良く出来ていましたものでそれを裏表貼らせて頂いております。それで質問いただいた事の1番は残念ながらその地図をどこで売っているのというのが最初の質問だったのですが、これはトラスト協会というのは野川の河口に向かって左側、世田谷区に入っていくところにありますトラスト協会の事務所です。非常に良く出来ているものなのでぜひお買い求め頂けたらと思います。それからあと2つご質問を頂いていて、ニュースレターを21枚貼り出したのですが、こんなに良く作ったっていいけど、どうやって配布するのということでしたが、これはいま流行のネットで配信していますので、ネットを持っておられない、100名会員がいるのですが、持っておられない方のところは他人からアウトプットしてもらってお渡ししているというような感じでございます。それからもう一つは、これは直接野川とハケの森の会ではなかったのですが、なかで蛍をやっておられる方たちがいらっしゃったのでお話ししたのですが、三ツ池に蛍が自生しているのでその蛍を分けてもらえないかというお話があったのですが、すみません自生の蛍はそのまま自生し続けるのでいま一杯なので、確かに東京23区内で自生しているゲンジホテル、昔からある蛍というのはもうこしか残っていないと言われてはおりますので、出来るだけしっかり自分たちで育てられるようにして、将来的にはそういうことも、関東型のゲンジホテルですので、これはDNA鑑定をしてもらって実際にそうだったもので、分けられるぐらいに早くになりたいとは思っておりますが、この場を借りてちょっとすぐには出来ない私たち、すみませんが。

世田谷区 私は世田谷区役所の木村と申します、・・の近くに住んでいます。本日は砧総合支所土木課長の五十嵐が生きもの分科会の一員として参加する予定でしたが、他の仕事の関係でちょっと出られないという事で私が代わりに出て参りました。その代理で出てきて、いまここに突然座っています。私が関係している仕事ではないのですが、・・今日これをやらさせて頂いているのですが、国分寺崖線の保全条令、本年度17年の4月に制定しました国分寺崖線に関する4つの条令、そのパネルを展示させて頂きました。国分寺崖線は皆さんよく野川を見ていらっしゃいますのでご存じとは思いますが、多摩川が10万年かけて掘り下げてきた段丘でございます。野川は湧水もたくさんありますし、野川とは切っても離せないような大事なものであります。その以前も、世田谷区としては野川も含めてイベントしていきたいなということでいま活動しているところでございます。質問に関してなんですが、あまり私はそのパネルの付近に居なかったのですが、先ほどの連絡会からもありましたが、国分寺市と世田谷区は、国分寺崖線の保全を関係自治体で行おうというような連絡会を立ち上げたところでございます。それを進めて欲しいというようなご意見を頂きました。これからどんどん進んでいくことだと思っておりますが、市民の皆さんのご意見を、・・・というような状況だと、それもひとつ期待してはいるのですが、そういったところです。あとは野川の私個人としましては浚渫工事の設計をした関係もございまして野川の浸水被害に関するご意見も頂きました。なかなか治水も、大雨で洪水もありましたが、治水がなかなか進まない状態のなかではあります。浸水も被害の資料の関係でご説明できればなというように思っているところでございます。

市民 こんにちは。私は野川の最源流の国分寺、国分寺・名水と歴史的景観を守る会という大変長い名前が付いている・・・と申します。今日は野川の最源流のことですので、野川源流国分寺市より水の育む・・・たちというタイトルで写真パネルを19点展示させて頂きました。まずひとつは野川の体験という、日立中央研究所というところのヤト川、谷が二つ深く切り込んでおりまして、その谷が合流しているところが日立中央研究所の敷地なんです、そのヤトの奥の方に今年の秋は水がございまして、湧水だと思います、そういった写真とそれから利用しているところが多いという写真、それからそこから外へ出てくる水門の写真と、それからもうひとつの源流は真姿の池の様子、それは・・・水辺の・・・、それから生きものが育まれているというそういう様子の写真を撮って来ました。それから真姿の池湧水群のある、真姿の池湧水の最も水が少なかった一昨年の様子とそれから昨年の秋台風の後、非常に水が増えて大出水という状態だったと思うんですよ。それからもうひとつ、国分寺と小金井の境目のところに鞍尾根橋という橋がございまして、そのところで野川の様相ががらりと変って、小金井は大変緑が多くて、国分寺のほうは三面張りになっています。そういった写真を紹介しました。それから私どもの会では2年間にわたって真姿の池湧水群の定点写真をとっております。それを今日は500枚ほど持って来て紹介をしました。それから湧水の漏水についても2年近く、毎日それは記録をとりまして、そういった資料を持って来ました。ご意見としては日立の中央研究所というのは年に2回しか公開されないのですが、・・・最後に真姿の池湧水、崖の水をマンションが遮断する問題で、それによって水みちに影響が出ているのではないかと・・・。

市民 生きもの分科会のブースで説明をしておりました杉山です。私は意識的に野川ルールのことを、皆さんにご意見を聞きたいなと思ひまして説明をさせて頂きましたら、概ね皆さん好意的に受け取って頂きまして、ぜひ広めて欲しい、あるいは今後野川ルールをぜひその流域で活動している団体の人達にも情報として流して欲しい、あるいはぜひ冊子にしてほしい、冊子にしたら自分も持ちたいと思うので冊子にして欲しいし、冊子が出来たら学校に配布したいというご意見もありました。それから後は観察会、あるいは川づくりの様子もパネル展示していたのですが、そういったことに参加をぜひしたいと、孫を連れてあるいは子どもと一緒に参加をしたいので、イベントの情報はどういふふうに流しているのですかという質問がありまして、市報、広報などを使っている流している説明も、もっともっと知らせていく努力をする必要があるのかなと思ひました。以上です。

東京都 今日は東京の河川という、一番最初のコーナーで参加しました。都庁の河川部の持田です。展示したものが流域連絡会の概要と、河川整備計画の経過。河川整備計画はこの流域連絡会のなかで6回意見交換会をやって、ちょうどこのシンポジュームのタイミングで河川整備計画のほうも出来上がったというようなことで、そういったお礼もこめまして今日は参加したというようなことでございます。

市民 水みち研究会の神谷です。ちょっと古い資料ばかりで水みちのマップを展示させて頂いたのですが、結構見ていらっしやらない方も意外といて、どこに行くと手に入るのですがというような話がありました。また中身に付いて説明しないと解らないという部分があるので、いろいろ聞かれて、実は水みちの回りこみ現象というのはこんな事でこういうふうに出るんですというような話をしたりとか、ちょっとそんなことがありました。それから地図等はちょっといま良くもないのですが指導をしてもしょうがないので、いろんなどころでお配りできるようなかたちにしたいなと思ひました。

すいません、もう一役、水量分科会のほうですが、水量のほうは発表したものとしては先ほどのパワーポイントの内容と同じで地図をつくったりいろんな作業をしたもの、1期で作ったものも含めて展示いたしました。作ったものは全部展示出来なかったのですが、雨水浸透マスポイントを落とした実体のもの、これなどからは結構いろいろな読み取りが出来そうだね、そんな話も出ていました。それから頂いたご意見、私もずっと付いていられたわけではないのですが、やはり水涸れの話に1日も早く何とかしたいなと、それから白子川の上流でもそうだとか、姿見の池などもだいぶ水が減っているとか、三ツ池の上も温泉掘削の話があるとか、そんな話も出ていました。それから先ほど、浸透マスに関してはやはり追跡して何かモデル的な試験をしたいなという話が土研さんの方からあったりとか、下水の雨水管からの浸透というようなことも少しトライしているんだという話も伺いました。それで調査関係の話でやはり研究が大事

なのだけれども、なかなか都の方の研究も少し縮小気味だし、野川全体の中でも昔は武蔵野台地の研究、地下水研究者がたくさんいたのですが、気が付いてみるといろいろ亡くなっている方もいらしたりで、昔よりもしかしたら減っていて手薄になっているのかなと、やはりこういう調査は長期にわたって続けていく事が必要なので、目先の予算で縮小していくということではなくて継続するようなことを市民なり流域連絡会としても求めていきたいなとか、そんな話がありました。

進行役 はい、ありがとうございます。これでぐるっと1周したのですが残り時間があと15分、この時間は3時15分には終わりということなので、あともう1分ずつならばぐるっと1周帰ってこれると思いますので、ご協力をお願いします。先ほどまで水量分科会、水質、生きもの、その3つの分科会からパワーポイントで説明があったのですが、皆さんがつくって発表したパネルがありますよね、そのパネルの中とさっきの発表のなかで、何かちょっと関係があるような、例えば野川ルールのあそこはちょっと関係しているよとか、水量水質の課題ではうちはこういうことを取り組んでいますよとですね、そういうのを1分以内で、持田さんところからまたぐるっと今度は前に返す感じでよろしくをお願いします。無いところは無いですとはっきり言って頂いて結構なのでよろしくをお願いします。

東京都 河川整備計画をつくるときに、私ども16年に担当になって、流域連絡会の話を受けて要するにどういった内容が必要なのかと、野川ならではのものをつくるに当たっては、どういったものが必要なのかということで、私どもは本当によく解らない状態で参加して、いきなり水量と水質ということと、あと徐々に造る時にあたってその生きものと利用という部分ですね、ルールみたいな部分、そういったことがやはり治水と合わせて必要だということが解ってきた、それに整備計画であるひとつの様式があり、いかにそれらを入れていくかということで、一応努力をいたしまして反映は100%ではないですがかなり反映できているという私は自負して、自負しているだけかもしれませんが自負しておるといふかたちで、今後の良い取組みがどうかと問われる部分は解った上で、第1報といふかたちで発表できたなというふうに思っているということです。

進行役 ありがとうございます。すいません、30秒という心得をお願いします。よろしくをお願いします。

市民 水量分科会の展示のところに野川流域の湧水地の一番多いときの水量、一番少ない時の水量というのはぜひ会報に上げて頂きまして、国分寺以外の水量という部分については今まで私、解らなかつたんですが、それに付きましてはやはり国分寺が最源流ということでもあるし、一番やはり水量が多いんだということが解って、国分寺市としての責任というものを強く感じました。以上です。

世田谷区 私どもは国分寺崖線の保全条令をやっていますが、先ほど野川と崖線条令は地域で考える・・・なのですが、水量水質生きものに関して、水量水質に関しましては流水ということですからね、安全に配慮するために規定というのが、あるべき水の量にも影響してくると思うのですが。またあの崖線条令が野川の生きもので、生きものと野川の・・・、そういった関係もあると思います。そちらのほうが管理してくれると。

市民 すいません、自分が発表したところと関係がないのですが、雨水浸透マス系でちょっと3つほど質問というか。1つはこの間、東京都の下水道局と話す機会があったのですが、雨水専用の下水管で透水する下水管というのがあるんですが、そのデータというのはお持ちなのか、それをちょっとお伺いしたかったのと、そういうものがあるのであれば、その普及というのがどれくらい効果があるのか、本管をそういうものにして頂けるのかどうかですが、その点が1点。それから助成の話なのですが、世田谷区の方のお隣にいまそういうお話のあれなのですが、助成が11月くらいもう無くなっちゃったんですね、それくらい付けようとされる方も多いのですが、もう少し頑張って都と区で助成金を出して頂けるともっと普及するのではないかなという点が2点目。それから3つ目はちょっとアイデアなんですけど、他でやっていたらごめんなさい。浸透マスの設置の家という何か小さなプレートというのは作れないんでしょうかね、みんなでお宅の前にそういうものを貼って、競争心を煽るといったら悪いのですが、そういうものが付いているとやはりこれは何という話にもなると思うんですね。すいません、以上です。

進行役 ありがとうございます。これに関連することでお答え出来る方がいたらその場所をお願い致します。では平井さん続けてお願いします。

- 市民 わたしのほうで質問に絡むのですが、ひとつ質問がありました。上流下流の市民団体の横の協力関係はどうなっているのか。それからご意見ですが、流域で生活をしている人達の意識改革が環境改善のために必要だねということです。これは先ほどの野川ルール、ああいうところで私たちはこういう事を書いていますよというのをピーアールすることの重要性に繋がるのかなというふうに思いました。私たちはわんぱく夏祭り関係で、とにかく続けて欲しいと、楽しそうだねと、わたしも行きたいねというご意見がほとんどなのですが、続けるという事なんですね、これはどの分科会もそうなのですが活動を続ける、ピーアールを続ける、アピールをし続ける、続けるという事が大事だなと思いました。
- 市民 水質分科会の鈴木ですが、今まで1期、去年と一昨年と今年は3月まで、その中でやはり水が無くなってくると水量分科会の議論しているような事は水質分科会でも別の議論をされているのですが、これから出来ることならば年に2、3回といわず合同で両委員会を開催して頂けるようなお骨折りを頂ければと思います。以上でございます。
- 市民 先ほど生きものの中なかで出てきたルールについての補足ということで、私どものドジョウ池にはやはり妙なものが投げ込まれると言うと語弊がある、放されると言ったほうがいいと思いますが、熱帯魚が泳いでいたり、つい最近では立派な鯉がいつの間にか池の中かにいたというような、例の先ほどのペットをどうするかということと、やはりああいう池というところを管理していますと、非常に密接な関係があります。このへんはまあ人の気持ちというか、ルールを守るということで解決せざるを得ないことでもありますが、出来ればこういうことというのはやはり皆に知らせて皆で守るといふかたちをとって頂けるといいなというふうに思います。我々の池では禁止事項がありませんので、これをやってはいけないとかそういう事をしていない、したくない池でございます。夏は子ども達が池の中に入って思う存分、中にあるものを採る、それをやって下さいという池ですので、そういうことの禁止はないのですがやはり飼っているペットを捨てていくという行為については非常に関心を持たざるを得ないということです。それから先ほどお話し出来ませんでした質問がありましたなかに、どんな活動をしておられますかというので、まあ我々はいま月に1回池の清掃、その他をやっておりますし、また1回例会を開いてこれからの活動方針はどうかということをやっています。その他に7月には子ども達を集めた昆虫観察会を盛大にやっています。その状況を見た方からやはり子ども達が加わっているこういう活動というのは素晴らしい、ぜひ続けてやって下さいというメモを書いて頂きました。私どももそのように思っております。これからも頑張ろうというふうに思っております。
- 市民 野川の上流と下流で野川に対する考え方が大きく違うという話になりましたが、世田谷区喜多見は野川の下流にありまして汚物が流れてくる場合もあります。それから私が住んでいる喜多見5丁目の付近は柵で囲まれていて普段は野川に入れる事は出来ません。今日はいろいろな発表を見ていまして、小金井の子ども達は野川をすごく身近に感じてとても幸せそうに見えたので、ぜひ世田谷区のほうでももっと身近な川になればいいなというふうに思っています。それには水質分科会が提案していたように子どもが遊べる水質にということを目指したいと思っております。それからその喜多見の野川のすぐ脇を外環自動車道が走る計画があります。野川に必ず影響が出るのではないかと心配していますので、皆さんもその経緯をぜひ見守って頂きたいと思っております。以上です。
- 東京都 先ほど下水のほうで、雨水管で地下に浸透させているかと、事例はあるかというご意見がありましたのでお答えしますが、雨水で既成がされている水道ということでかなり昔に練馬と板橋でやっております。かなり効果があるというふうに聞いております。それからもう一つ、雨水マスの補助ですが小金井市が昨年の12月に5万基を越えているんですね。彼らはいわゆる小金井方式といいまして個人的ではなくて指導しているという例もありますので、やはり小金井方式がこれからの指針かな、補助ではなくて指導で付けていくという事も考えていかざるを得ないだろうと。それから浸透マスの効果なのですが、私どもで東京の湧水ということで30ヶ所ほど水質を測ってきて、その結果、野川流域とその他の流域を比較しますと何が違って来たかということ、実は他の流域はほとんど水質は変わっていません。ところが野川流域だけは改善している、具体的に言いますと塩素イオンと硝酸塩ですね、それがどんどん減ってきております。です

から浸透マスの効果は湧水について言えば見られるというふうに思います。

進行役 飯田さん、設置の家のプレートというのはどうですか。

東京都 実は昔、考えた事があるのですが、その時の上司がずいぶん反対して止めた経緯があり、あまり触れたくない。

進行役 ありがとうございます。土研さん、お願いします。

東京都 今後の課題として先ほど神谷さんも言いましたが、浸透マスを設置した後の浸透能力の効果について追跡調査、どこかモデル的に決めてやりたいのと、浸透した後の帯水層、礫層、砂礫層がどういうふうに分布しているかどうか、そのへんはまだ解っていない所なので、今後の課題です。

市民 せたがや野川の会はまだ出来て3年目ぐらいでして、流域連絡会の方たちともいろいろネットワークをつくりたい、とお願ひしたいのですが、そういう場所に僕ら懇談させて頂いて、皆さんと交流させて頂いたことがありがたいことで、これからもよろしくお願ひしたいと思います。それから僕らのこれからの課題という質問があったのですが、やはり地域とのネットワーク、僕らは川を大事にしたいからと思ってやってもなかなかそれだけでは思うとおりいきませんので、例えばやっている場所だったらその地域の境界線だとか、小学校中学校というところと繋がって行って活動を広げていきたいなと思っています。でも当然各市の方たちとの繋がりも大事にしていきたいと考えています。それから野川の下流側はウンチがブカブカと言われて、何度も言われるのもどうかと思っていますが、この間実は河川清掃をしまして、固形物ですね、ウンチブカブカは溶けてなくなっちゃうんですが、固形物はそのまま中洲の部分に引っ掛かっちゃってすごい無様な格好なんです。意見書を製造メーカーの方に要望しまして、業界などを通してそういう注意書きを大きく書いてくれるようなことを考えて下さいということをしました。ですから対処療法ではなくて元からそういう・・・思っていますので、皆さんどうかよろしくお願ひします。

市民 森の川の・・・という言葉があるか、つくるか、ありますよね、私も調布市ではちょうど先週、貯留池の保全活動をしている人達が集まって、貯留池の・・・のルールを作ろうという話になったんです。その時に、野川流域連絡会のほうで野川ルールというのをつくるんですよという話をしましたらそれはぜひ知りたいし、川と・・・の活動というのは繋がってきますので、交流が出来るようにしたいねという話がありましたので、また・・・いいと思っています。

市民 私は流域連絡会で水量分科会に入っています。先ほど何度も出ています、水の無い川は川じゃないよ、そこがやはり一番大きな問題だと思っています、水量分科会のなかでも何か出来ることを出してみよう、短期中期長期の目標を作ってやろうという話をずっとしています。そのなかでやはり市民が出来る事は市民がやろうねということで先ほど展示しました雨水の貯留ということを進めようということ、雨水タンクの設置を働きかけています。個人の家を設置しようということで、これは行政を頼ろうとか何かやって頂戴ということではなくて、私たち市民一人一人が出来る事をする、雨水に対して皆さんの市民それぞれの思いを向けていこうと、雨水は下水に捨てるのじゃないよということも広げていこうと思っています。雨水タンク、値段が幾らですかと質問があったのですが、タンクによって様々なのですが、200リッターぐらいのものだったら3万円とか4万円ぐらいからあるんです、10万円とかいうのもあるのですが。飲めますかと聞かれたのですが、常時とかじゃなくて、水が水道水が止っちゃった時にどうするかといったら、雨水を飲むしかないし、使うしかないです。自分のうちにある雨水タンクに溜まっている水を、まあ沸かせば大丈夫でしょう、もしどうしてもだめだったら濾せば、給水車が来るまでの間、それで繋ぐ事もできるでしょう、というようなことで、まったく飲めない訳ではない、雨水だからというふうに思っています。それから浸透マス付けるか、雨水タンクを付けるかどちらがいいでしょうねという質問があったのですが、どちらも大事じゃないかなと思います。崖線の斜面地は浸透マスは付けられないんですね、それは雨水タンクを付けてでも自分の家の屋根に降った雨は溜めて、そうしてゆっくり使って地面に戻そうねというふうに考えていったらいいのではないかと思いますので、皆さんもとりあえず5万円ぐらいあれば付けられますから、雨水タンクをつけようねというふうなことで活動を進めていって頂ければいいなと思っています。

市民 水みちの調査というのは実質井戸調査をやっていたんですね。先ほどちょっといま都でなかなか予算も厳しくてというなかで、河川の水量も自動の監視のシステムだったものがやれなくなったとか、そういう話を聞いていて、水みちでなんというんですか、井戸のモニタリングといいますか、日常的に市民が井戸を使うということそのものが監視というか調査というか、そういうものだと思うんですね。日常的な観測態勢に対して市民が出来ることという点では、ちょっと井戸のその後のフォロー、調査もしていないし、今までの議論のなかで抜けていたかなというふうにちょっと反省していました。

進行役 ありがとうございます。ぐるっと1周終わって、ちょうどいい時間ですね。これで特にこのパネル報告と情報バザーの意見で何かとりまとめをするという話ではありませんで、この時間はこれでお開きにしたいと思います。皆さんお席に戻らないで頂いて、このままで、いま小倉座長がこのままで続きのまとめに移りたいということなので、席に戻らないでこのままでお終いにしたいと思います。情報バザーの発表者の皆様、どうもありがとうございました。

進行役 コーディネーターの倉持さん、ありがとうございます。皆様どうもありがとうございました。それでこれからは質疑応答も含めまして、まとめに移りたいと思います。進行は座長の小倉先生にお願いしたいと思います。小倉座長よろしくお願い致します。

7. まとめ

座長 小倉です。今までは流域連絡会の活動の報告がずっと続いていたので、まず今日ご参加の皆様方から何か質問やご意見がありましたらぜひ、他の流域から来て頂いた方もあると思うので、野川ではこんなことが起こっていたのか、私のところではこんなことをやっているよという、質問やご意見があればぜひお願いしたいのですが。はい、どうぞ。

参加者 六市一区のなかで雨水を合流式に下水道に流すのか、分流式で流しているのかこのへんの説明をちょっと聞きたかったですね。分流さえしてくれたらウンチがプカプカ無くなるわけですからね。このへんちょっと教えて下さい。

座長 流域全体ではいかがでしょうかね。では飯田さん。

東京都 野川流域では合流式です。分流式のところはほとんどないです、ごく一部しか。ですから雨が降れば汚水が川に流れるという区域です。もうちょっと上流側にいきますと分流式がたくさんあるのですが、かなりの部分、昔からある地域ですので古い知識ですいません。

座長 よろしいでしょうか。

参加者 分流式に換える動きはないのですか。

座長 では飯田さん、続けてよろしく申し上げます。

東京都 今から合流式を分流式に変えるというのはものすごくお金がかかるんですね、掘り返すということになります。そういうことなので、今のところ、動きは、下水道関係ではありません、残念ながらありません。

座長 他に何かご意見、ございますでしょうか。どうぞ。

参加者 私は以前新宿のほうに住んでいたのですが、昨年国分寺に引越まして、野川とか湧水地を含めて見せて頂いて、やはりいま野川は水が無くなっていますね、水が無くなるのが一番問題、私はちょっと生きものをやるものですから、それからまあ今日の発表のなかでやはり子ども達が遊べる安全な川ですね、その時にやはり整備として生きものというのは必ず餌がなければ、水が無ければ生きてはいけない、私たちも生きものですから、全て生きもの・・・、食物連鎖、食べたり、捕食関係、その関係がちゃんときちんと出来ていないとダメ、循環しない。水とどういふふうに循環していくか、一番大切なんですね、やはりいま・・・水を含めて、一人一人の生活のなかでやはり出来ることからやっていかないとちょっと、全部行政と国に任せていると出来ないですよ、・・・生活をしている人達がやはり意識を改革していかないと次の世代にまた同じように私たちが・・・、そういうのを含めて・・・大切にすると。私はちょっと生物のほうを見てきたので、やはり私たちが使っているものが流されているわけですね、合成洗剤、漂白剤とか、たくさん入っていますね。そういったものが生物のなかで、それに耐えられるそういうシステムづくりに取り組むということ、まず目に見えない生物から現在の環境問題、わたしたちが関わった・・・状態ですけれどもね。

それから生物の、もうちょっとね、確認していくことが大事。それから皆さんがだいたい考えて、シノ世界になっているところだったら、シラサギのように・・・そういうことが・・・戻ればね、一応そこまでの生物の食物連鎖、・・・改良していかないと私たちの・・・と思うんです。

座長 はい、ありがとうございました。時間は3時半までということであと5分ほどしかないのですが、今まで情報バザーでいろいろな意見が交換され、皆さんからいろいろな意見が出されました。いまの意見の関係があるのですが、環境改善には意識改革が非常に大切であるということ、あと上中下流の交流ということで、野川の分科会でもいえるし、水質と水量の分科会を合同でやって欲しいという、お互いに情報交換をしながら活動を続けることが肝心というご意見が平井さんからありました。この流域連絡会の活動は3期に向けていま着々と準備がされているという状況だろうと思います。壇上に上がられている方お互いに意見交換をする時間が十分になかったのですが、簡単なコメントを頂ければ、今後の継続、3期に向けて、主要な課題はそれぞれの分科会で考えてはられると思うのですが、今後の活動に向けて何かございますでしょうか。・・・

市民 せっかく壇上に研究所の方とか、東京都さんとかも見えられていて、分科会のなかでも話しがあったのですが、少し広める部分と、蓄積したり固める部分があって、いろいろ調査してきてその先もっと深めないといけない部分になるとやはり限界があるなと。そろそろ、いま何かそういう研究部門というのですかね、専門的なものとか、ちょっと外の大学との連携とかそういう話もちょっと出ていまして、3期に向けてそういう何か専門部会ということかちょっと解りませんが、そんなものが深められたらいいのかなという気がしました。

座長 はい、ありがとうございました。出された調査、研究の成果を少しまとめていくと、専門的にまとめ、何が課題であるかということをもう少しより明確にしていくということだろう、大変重要なご意見でございました。何か他に、継続する事が大変大事だと、皆さんそう思っていると思われます。私の最初の話題提供で100年はやろうということで、それぐらいの意気込みをもってぜひやりたいとは思いますが、何かそのへん、どうやったら活動が続くのか、また今日南小の発表がありましたが、若い世代に引き継ぎながら、継続することも大変重要な事だろうと思うんですね。どうしたら継続できるのかというようなことについて何かご意見ございませんでしょうか。何か良いアイデア。はい、どうぞ、・・・さん。

市民 継続するという事に直接繋がるのかどうか解りませんが、やはり活動を続けていく時に目標を持ちたいと思うんですね。野川についていえば本当に水廻れをどうするかという話になっていますので、水量分科会の中に出ていました水路の復活という事に向けて、ひとつ水路を復活するためのプロジェクトをつくってどうやったら復活できるのかというようなことを考えていこうみたいな、そういうふうな具体的な活動をテーマにしてやっていく部会なり何なりが・・・にあったらいいなというふうに思っています。

市民 水量分科会のなかで納得流量という言い方が出ていたのですが、その、それを探っていくのは水量分科会だけではなくて、生きものの面からも水質の面からも川の構造はどうなんだだろうということで、少しそのへんを一緒に、納得流量どの程度というものを出して、それを満たすにはじゃあ水路とか他の水源をどうしていくのかというような、そんなふうに出す、そういうことを検討するチームというか、そのものが必要なのではないかなと、さっき次期に向けてはそんなふう考えております。

座長 はい、ありがとうございました。だいが具体的な目標、例えばひとつ納得流量というものを定めてそのために何が出来るのか、そのために生きものもどの位の水量が必要なのか、水質が良好な水質を保つためにはどの位の水量が必要なのか、具体的なそういう目標を決めて例えばひとつの水路を復活させると、そこに納得流量を流すためにどうしたらいいのか、具体的に考えていこうと、それは大変良いですね、第3期にむけての具体的な目標になる様な気がします。ではもう時間もないので、簡単にコメントをお願いします。

市民 ひとつだけすいません。できるかどうか解らないけれども、さっきお話しで出た野川清掃の横のつながりで、せっかくこれだけ皆さんいらっしゃるのだから、同一の日に野川の清掃をやったらというお話しが出ていましたが、清掃が良いかどうかは別にして野川の日みたいなものをつくって横で一斉のイベントをや

るというようなことを、にすれば地元にもっとピーアールが出来るのではないかな。それで学校まで参加出来る様なかたちでイベントが出来れば、かなりみんなが野川というものを認識してくれるのではないかな。清掃は・・・通例になるのではないかなとは思いますが。そして汚いところも行政さんに見えてくるし、周りの方にも見えてくる。残念ですが事実の部分もけっこうあるので、そのへんを皆さんに知って頂ける・・・。そういうので提案をしたいです。

座長 はい、ありがとうございます。大変結構な提案だと思います。水質に関しては野川も含めて全国で同じ日を決めて一斉に調査をするというのが立ち上がっています。野川でも17回、今年で18回目になります。ですから水質とゴミ、その組合せですね、そういうものをうまく関係させながら、それもひとつ具体的な提案ですね、野川の日を設けて流域全体で何かやろうということで大変良い提案だと思います。そろそろ残念ながら時間です。いま大変良い意見が出てきまして、3つほどですね。第3期に向けてひとつは、今まで得られた調査、研究の成果を具体的にまとめるようなことを考えてこれからの施策や目的に反映させたらどうかというようなこと、2番目は具体的な納得流量の、水涸れを防ぐために水量を確保するためにどうすればよいのか、それは水量だけではなくて水質、生きものからも重要な観点だと思います。そのために何か身近な水路をモデルにしてそこで考えていったらどうか、3つ目は例えば野川の日を流域全体で考えて清掃や水質など、やれることを皆で考えていこう。そんなことが具体的に提案されて第2期の終了と同時に第3期に向けて具体的な目標が出来たような気がします。残念ですが、こういう議論をもう少し長く続けられれば良いのでしょうかが大変長丁場になりましたので、このへんで第2部は終了ということにさせていただきます。ありがとうございました。

8. 閉会

進行役 小倉座長どうもありがとうございました。貴重な情報交換が出来たと確信しております。まだまだ続けたいところではございますが、予定の時刻となりましたので閉会の挨拶を本日のために準備されてきました事務局の北多摩南部建設事務所の米沢工事第二課長にお願いしたいと思います。それでは米沢課長よろしくをお願いします。

事務局 活発な議論の後、終了という大変損な役割ですが、時間が参りましたので終了させていただきます。会場の皆様、今朝は早くからご多忙のなかをお出で下さりましてありがとうございます。お陰様で盛況にこの報告会を行うことができました。また委員の皆さん、それから団体委員の皆さん、今日のために準備を進めて頂きましてありがとうございます。また小倉先生、本当にお忙しい中、座長としてこの会をまとめて頂きましてありがとうございました。盛況のうちにこの報告会が開かれ、また成功に終わったというふうに思っております。事務局としましては今日の第2期のこの報告会で一応区切りとしまして、第3期に向けていま準備を進めているところでございます。今月いっぱい、第3期の委員の皆さんを募集しているところでございます。ぜひ皆様におかれましては応募のほうを、よろしくお願ひしたいと思います。3月に委員の決定をしまして、4月には第3期の準備を進め、5月の中旬以降、第3期の1回目の流域連絡会を開きたいというふうに思っています。今日もお話しができましたが「川というものは流域の暮らしぶりを映す鏡」だということで、この流域連絡会を通じまして流域の皆様へ情報発信をしていきたいと思っています。ぜひご支援のほどをよろしくお願ひ申し上げましてご挨拶と致します。今後ともよろしくお願ひします。

進行役 以上を持ちまして閉会とさせていただきます。皆様長時間にわたりましてご協力ありがとうございました。